

第2回三次・安芸高田・広島まちづくり交通協議会 議事概要

日時：令和6年11月28日（木） 10：30～11：50

場所：合人社ウエンディひと・まちプラザ

北棟6階マルチメディアスタジオ

出席者：委員13名（内、WEB出席1名）、オブザーバー1名

1 開会（会長挨拶）

- ・5月に第1回協議会が開催され、協議会の設立とJR西日本から現状説明があった。その後、第2回協議会までに3回の幹事会を開催し、3市におけるまちづくりを中心に話を進めている。
- ・本日はまちづくり交通協議会のまちづくりの部分の話を中心に、幹事会の議論の内容を踏まえながら、議論を進める予定にしている。
- ・大学の「都市交通政策」の授業で1番最初に交通の定義を教えており、“交通は派生需要である。買い物や通勤、通学といった根源的な目的を支えることによって派生的に発生する需要、これが交通である”という言い方をしている。そういった意味で、根源的な需要目的のまちづくりの部分から話を始めるということである。
- ・まちづくりは、最近コンパクトシティや集約型市街地という言われ方をしており、駅を中心に日常生活を支える様々な機能がどのように集積しているのか、といった観点から、まちづくりについていろいろと情報提供をいただき議論を進めていきたい。

2 議事（1）3市連携したまちづくりに係る検討

松尾委員より、資料1「高陽地域・白木地域活性化プラン作成検討ワークショップニュース」により、高陽地域・白木地域におけるワークショップの状況について説明。

資料2「沿線地域でのまちづくりの現状と方向性」を矢野委員（三次市）、黒田委員（安芸高田市）、鈴木委員（広島市安佐北区）、荒木委員（広島市東区）の順で各エリアを説明。

その後、庶務からP9「今後の議論に向けて」を説明後、委員より意見あり。

【山田委員（広島市）】

- ・広島市内で、高陽地区や東区の戸坂地区、二葉地区を含め、朝夕を中心とするバスの定時性の低さや交通渋滞といった、交通課題があげられている。広島市では、乗合バス事業について再構築の取組を進めているが、一方でバス運転士の不足といった制約もある。
- ・こうした中で、交通全体の利便性の向上のために芸備線を活用していく方法について、そういったバスなど他の交通に係る議論も含めて、地域の皆様にも御意見を伺いつつ考えていきたい。

【三島委員（オブザーバー）（広島県）】

- ・3市連携したまちづくりに関する検討の部分で、それぞれの地域のまちづくりの方向性、沿線地域の課題として、芸備線と二次交通との連携強化があげられているが、こうした取組が、芸備線の利用者の拡大や芸備線を軸とした人の移動の活発化につながるものである。
- ・芸備線との乗継の利便性向上については、現在、庄原地域で取組を行っているところであるが、

地域では運転士の確保等々の課題もあるため、地域の交通事業者の方々と連携をとりながら取組を進める必要がある。

- ・芸備線のダイヤや駅舎の環境改善などについては、これまでも県として、沿線市の皆様と連携し、JR西日本に対して要望も行っている。
- ・また、芸備線再構築協議会では、現在、調査事業として沿線地域の移動実態などの現状把握を行っており、その結果を踏まえて実証事業等を検討していく予定である。実証事業の実施にあたり、芸備線全体の利便性の向上につながるような実証事業をお願いしていきたい。
- ・芸備線再構築協議会の取組に連動して、地域のまちづくりや芸備線利用者の拡大に向けて、庄原市を含めた芸備線全線の広域的な交流の視点について、各市においても取組を検討して欲しい。

【渡邊会長（学識経験者）】

- ・県は県としての立場で、県全体を考えて幅広い意見をいただいた。
- ・3市で考えて、その先にはさらに広域的に考えることになると思うが、本協議会は今後の3市の方向性を考える協議会なので、まずは3市からスタートすることになる。

【松尾委員（広島市）】

- ・安芸高田市の「働き」で、向原駅舎の2、3階に企業誘致のためのコワーキングスペースのようなところを整備されていると思うが、これは安芸高田市が2階3階を所有していたところを活用したのか、それともJRから借りて活用しているのか。

【黒田委員（代理）（安芸高田市）】

- ・市が所有していた2、3階部分を2回に分けて改修し、企業誘致スペースとして活用している。

【松尾委員（広島市）】

- ・それを踏まえると、駅舎の活用を図るときに、それぞれどこが所有しているのかといった情報も非常に重要になると思う。
- ・今後の議論に向けて、エリア内の施設については、駅との位置関係も含めた詳細調査を進めるとあったが、駅の中の所有者の情報といったところもこの機会に整理すれば非常に参考になるのではないかと思うので検討をお願いしたい。

【渡邊会長（学識経験者）】

- ・コンパクトシティについて、立地適正化計画の中では駅を中心としたまちづくりを考えることとなっているので、駅をどう活用するかは非常に重要だと思う。

【奥井委員（JR西日本）】

- ・この協議会は「まちづくり交通」であり、当社としてもまちづくりを支える手段として、交通はどのような機能をもつべきかという観点で議論を進めていく必要があると認識しており、このエリアごとの「まちづくりの現状と方向性」を原点として今後の検討を進めていくと認識している。
- ・芸備線は敷設されてから100年以上が経過しており、その間、沿線人口や道路整備等の芸備線沿線のまちづくりの姿は大きく変化している一方で、芸備線の姿・形は大きく変わっていない

ものの、公共交通手段としての役割が変わってきている。

- かつては急行が走行し、芸備線が陰陽連絡の役割を担っていたが、その役割は高速道路等の道路網の整備の進展等により鉄道から自動車担当ようになり、広域的な役割から広島都市圏の輸送に軸足を置くような機能に変遷してきた。
- そのような芸備線の現状の中、今回示されたまちづくりの方向性においては、交流人口の確保という観点を掲げており、加えて、広島市内への通勤が可能となる等の日常利用における広域移動の観点も示された。
- これは広域都市圏の取組を含め、沿線3市が連携したまちづくりの議論の中において、芸備線の役割を改めて見つめなおす必要があるという課題提起だと思う。
- 今回、駅からの二次交通の確保という交通課題が多く上げられている。地域交通法の主旨に、「関係者との連携と協働」が謳われているところだが、自動車交通が発達している今日では、「道路網や自動車交通との連携」も必要な視点だと思う。
- バス、タクシー等の他の公共交通との連携強化、マイカーとの連携を見据えたパーク&ライド等のための駅前広場整備という観点に加えて、「今後の議論に向けて」に記載されているとおり、駅の位置という課題も出てくるかもしれない。様々な前提を排除しゼロベースで議論していく事も大切な事だと感じている。
- 鉄道は大量輸送という特性を有しており、日常的・定期的にご利用をいただく事が非常に大切であり、通勤・通学という観点は重要である。
- 地域の方々の日常の移動を支えていくために、芸備線に足りない機能、より高める機能はどのようなものか、地域住民の移動データや移動ニーズに基づいて、当社としても検討を進めて、今後示していきたい。
- 当社単独では行えない事柄も関係者との協働体制が構築できれば、実現の可能性も出てくると思うので、関係者や地域の方々との連携をお願いしたい。

【加藤委員（学識経験者）】

- 三次エリアの沿線地域の交通課題で、「三次に住みながら広島方面への通勤が可能なダイヤや環境の整備」とあるが、通学している学生（高校生）も多く、8月に三次市で開催された「JR芸備線を考える高校生サミット」で、三次市から広島方面へ通学している高校生から芸備線に関して乗継改善や高速化といった要望・意見があったので、「通学」を加えてもらいたい。
- 「学び」の箇所にも、「芸備線を盛り上げる会が芸備線を残すことを目的に三次市長に提言書を提出等の活動を実施」と書いてあるが、提言書や現在の活動の中にも、高校生の視点からのまちづくりという観点での提言や活動が行われていると思う。その中身やまちづくりに繋がる要素を抽出して、高校生を巻き込んだ項目を課題の一つの方向性に位置付けると良いと思う。
- 二次交通の課題に関して、資源が限られている中で、何でも二次交通を整備することも現実的ではないと思うので、目的や効果も踏まえながら、分析、検討することが必要だと思う。また、必ずしも公共交通ではないもの（例えばレンタサイクル）も、二次交通として使うことも含めて検討しても良いと思う。
- 3市で連携した広域的な交流の促進ということについて、芸備線を利用して人や物が動いていくことが、芸備線の機能の発揮につながり、まちづくりに対して波及効果にもなると思う。広

島広域都市圏の取組で交流活動促進事業があり、三次市が一番活用をしていると聞いている。同事業を利用後に報告書を提出することになっているので、その中に芸備線利用や都市圏のエリアを跨いだ移動について、まちづくりや交通整備につながるような意見やヒントがあると思うので、また共有してもらいたい。

- ・広島広域都市圏のホームページでは、沿線でのイベントカレンダーが掲載されており、西国街道ではマップが作成されている。これらも芸備線に応用可能と思われる。
- ・高陽・白木地区のワークショップでも、芸備線について様々な思いを地域の皆さんが持っていることが伝わってくる。芸備線に対して沿線の住民の意識や認識、関わりといった部分を高めることも必要だと思う。

【渡邊会長（学識経験者）】

- ・3市で連携した広域的な交流の促進に資する取組に向けた検討を進めるということはとても大事なことだと思う。
- ・マイクロツーリズムは、コロナ禍だけじゃなくこれから大事なのではないかと思っている。近所のすごく身近な所にいいものがあるってそれを楽しむ。それを3市で連携して広域的な交流を促進する、ということも必要ではないかと思う。
- ・高齢化社会であるが、裏を返せば昼間に比較的時間がある人が多くなるということもある。是非ともそういった方々に交流いただき、交通を利用してもらおうことが大事なのではないかと。とりわけ、お酒を飲むとなると公共交通利用になるので、そういった観点で交流促進につなげればいいと思う。
- ・これまでにでてきた意見を反映させながら、今後の協議会における議論を進めたいと思う。

3 議事（2）JR芸備線に係る基本認識の共有

庶務から「JR芸備線の現状分析」を説明後、委員からの意見あり。

【山田委員（広島市）】

- ・今回の調査は、下深川以北の便について行った調査ということだったが、安佐北区エリアの課題として、下深川で折り返す便が多く、下深川以北の市街地エリアにおける便数について課題であると書かれている。今後検討を進めていくにあたり、下深川や狩留家を発着する便についても深掘りをしていく必要があると思う。
- ・先ほど奥井委員から、二次交通や駅施設について発言があったが、そういったものを含めてより詳細に日常利用の検討をする必要があると思う。
- ・あわせて、沿線住民が芸備線を利用しているかどうか、利用していないのであればそれはなぜか、どういう目的なら利用するか、ということをや意向調査として行うと良いと思う。

【松尾委員（広島市）】

- ・P6 芸備線実態調査の乗車エリア別駅までの交通手段を比較すると、徒歩の割合が広島エリアでは非常に多いが、自転車の割合については、安芸高田、三次の割合から言うと少なく、広島エリアの徒歩割合を鑑みると自転車の需要がもっと高くてもいいと思う。そもそも広島エリアの方々はあまり自転車を使わないのか、もしくは駅の状況などで自転車が停めづらい状況があるのではないかと。

- ・パーク&ライドという考え方があるが、朝の通勤時間帯の自家用車は一人で利用することが多いと思うので、駐車時の一人当たりの占有面積が大きくなる。自転車はその点コンパクトで効率が良く、徒歩よりも広域をカバーできるため、サイクル&ライドのような取組を広げてみることで、自転車の割合をもっと高めることが可能だと思う。
- ・意向調査を実施するのであれば、このような要素も含めて調査して欲しい。

【渡邊会長（学識経験者）】

- ・最近では電動アシスト付き自転車があるので、芸備線の駅が比較的に谷筋の上や下という地形に位置しているとしても自転車で利用しやすいかもしれない。

【加藤委員（学識経験者）】

- ・今回の実態調査は平日の終日での調査のため、通勤、通学の実態が表れていた。平日はマイカーで通勤するが、休日は芸備線で広島市内に遊びに行くとか、休日は観光客が利用するなど、平日と休日では利用実態や移動行動が違う面もあると思うので、休日の部分も調査して欲しい。
- ・実態調査は便別でも集計できると思うので、どの時間帯の利用者の割合が多いのか知りたい。昼間に利用が少なければ、輸送力が十分あるということなので、広島市内の方や海外（インバウンド）の方などに観光等で、積極的に利用してもらいたいということになる。

【奥井委員（JR西日本）】

- ・国勢調査などの交通流動も、域内の流動だけでなく、改めて沿線市間の流動の重要性も認識することができ、より広域的な議論の必要性が見えてきた。今後の分析ではより潜在需要の観点で議論が深まっていく事に期待したい。
- ・現在の潜在需要だけでなく、全く新たな流動を如何に生み出していくのかの観点での取り組みも、今後非常に大切な検討事項であると思っている。沿線には様々な観光資源が存在していることもエリアごとの資料からもわかるが、その観光資源などが相互連携することによって、広島に来た人にもう一步芸備線沿線市域まで足を伸ばしていただく施策に取り組んでいくことも重要である。
- ・2025年3月24日には広島駅ビルが開業、西日本エリアにおいては万博開催も控えており、このような様々な機会を捉えていく必要がある。
- ・9月28日～11月24日、岡山県北部において岡山県と連携し、「森の芸術祭」を開催し、当社としても広域的な周遊観光を目的として交通アクセスの充実を図った。その結果、多くの方が岡山県北部に来ていただき、地域の魅力発信・活性化に取り組むことができた。このように新しい取組で新たな需要を生み出すという検討も、今後皆様方と連携して取り組んでいきたい。

【渡邊会長（学識経験者）】

- ・今後の議論に向けて、国勢調査を活用した調査は通勤、通学のことしか分からないので、手段別や過去についての調査をする必要がある。
- ・広域的な潜在需要の分析は、人流データを使うこともできるが、福井県ではパーソントリップ調査の観光版、観光データ分析システム（駅パス）を自治体や観光協会を中心に行っていると聞く。誰でも見ることができて、分析結果も分かるようなので、そういったものも取り組める

と良いと思う。

- ・観光や通勤・通学とか、様々な交通行動を含めて、まちづくりをどうするかと考えたときに、何が必要かを考えていければ良いと思う。
- ・出てきた意見を反映させながら、協議会における議論を進めていきたい。

4 議事（3）その他

庶務から「今後の流れについて」を説明後、委員から意見あり。

【渡邊会長（学識経験者）】

- ・今後の流れについては、ひとまずはこの流れで進めていきたい。

【三島委員（オブザーバー）（広島県）】

- ・情報提供であるが、現在県では芸備線の可能性を最大限追求することや、庄原地域のまちづくりに向けて実証事業の検討を進めている。
- ・先ほど高陽・白木地区でワークショップの説明があったが、庄原地域でも地域の皆さんとワーキンググループという任意の組織を立ち上げ、ワークショップなどを行って、実証事業の検討を行う予定であり、本日第1回が開催される。
- ・ワーキンググループの事業についても、必要に応じて内容を報告共有したいと思うので、3市における地域の取組の参考にしてもらいたいと思う。

【鍛冶岡委員（代理）（広島市）】

- ・議事1で、加藤委員から紹介された広島広域都市圏の取組について補足説明をする。広島広域都市圏内の交流を促進する事業として、公共交通を利用して地域活動団体が地域活動団体同士の交流を図るために、この場所を行き来する、市町を超えてもしくは市町内でも、地域資源を視察する目的で移動する場合の交通費を補助する取組を昨年度の秋から行っている。
- ・今年度、需要がだいぶ伸びてきており、例えば三次市が事業を利用され広島市に足を運ぶ、広島市内の子ども会が、三次市内の美術館へ芸備線を利用して行くといった事例もある。補助金があったおかげで初めて取組をすることができたとか、今までなかなかこういう補助金がなく活動ができなかったがやりやすくなったなど、インセンティブによって需要が生まれるといった効果もある。
- ・こうした広域都市圏の取組は、国の連携中枢都市圏制度に基づく交付税措置を受けながらやっている。国の措置も活用しながら、事業として構築していくことで、インセンティブを与えながら需要を創出するという事業を今後検討できる余地があると思うので、今後の検討の素材としてもらえればと思う。

5 閉会